

お客さまの信頼に応える 健全な経営を実現するために

生保労連の経営の健全性確保に関する取組み

生保経営が依然として厳しい状況にある中で、わたしたちは、お客さまの信頼に一層応える健全な経営を実現するために、経営に対するチェック・提言活動等を通じて、労働組合としてのコーポレート・ガバナンス（企業統治）機能の発揮に努めています。

生保経営をめぐる現状

依然として厳しい生保経営

生保産業は、業績状況に底打ちの兆しが見えるものの、全体として新契約高・保有契約高は減少しています。資産運用環境を見ても、株式市場が最悪期を脱したものの、長期にわたる低金利のため、依然として逆ザヤ構造にあるな

ど、引き続き厳しい状況にあります。

こうした中、「生保事業の信頼向上」に向けた「経営の健全性確保の取組み」の重要性がますます高まっています。

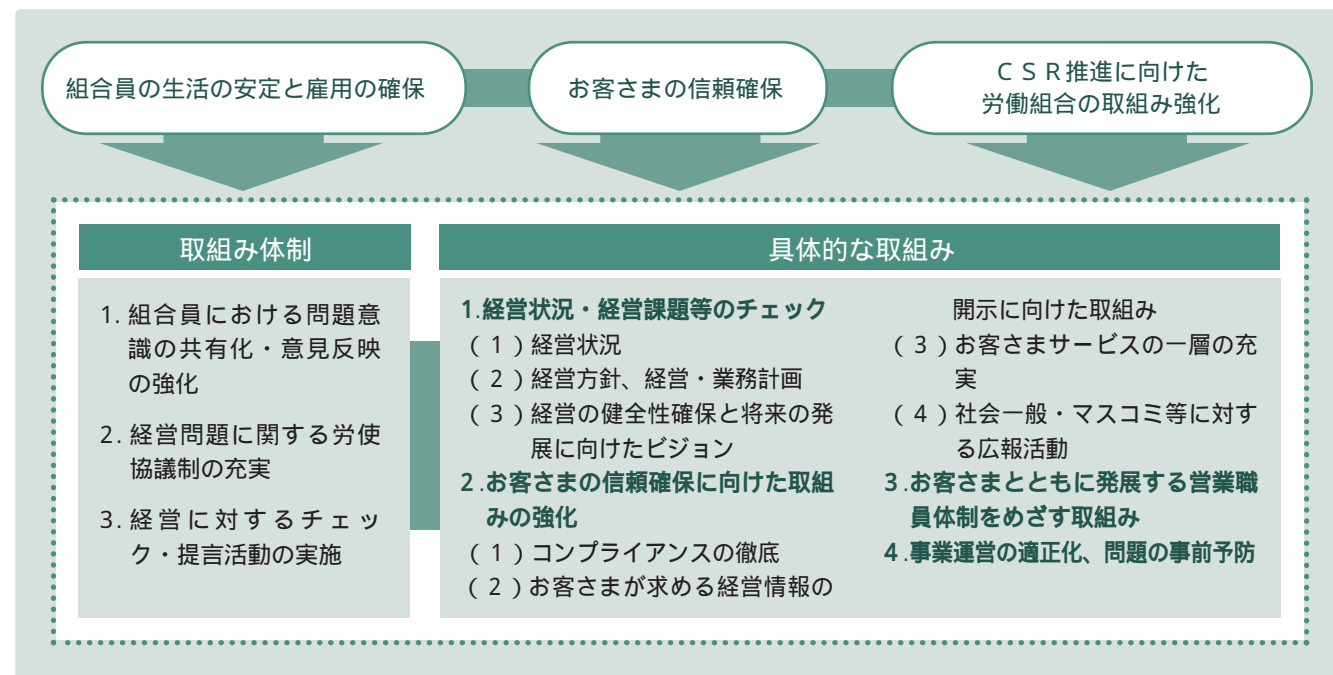
わたしたちの基本的な考え方

コーポレート・ガバナンス機能の一層の発揮に向けて

健全な企業経営が求められる中で、コーポレート・ガバナンス機能の強化に向けた環境整備が重要となっています。コーポレート・ガバナンスはすべてのステークホルダー（利害関係者）による実践が基本となりますが、中でも現場の事情に精通した従業員（労働組合）によるガバナンスが極めて重要であると考えられます。

わたしたちは、経営の健全性確保に向けてコーポレート・ガバナンス機能を一層発揮していくために、組合員における問題意識の共有化・意見反映の強化、経営問題に関する労使協議制の充実、経営に対するチェック・提言活動の実施等、取組み体制の充実をはかりつつ、お客さまの信頼確保に向けた取組みを行っています。

生保労連の「経営の健全性確保の取組み」の全体イメージ

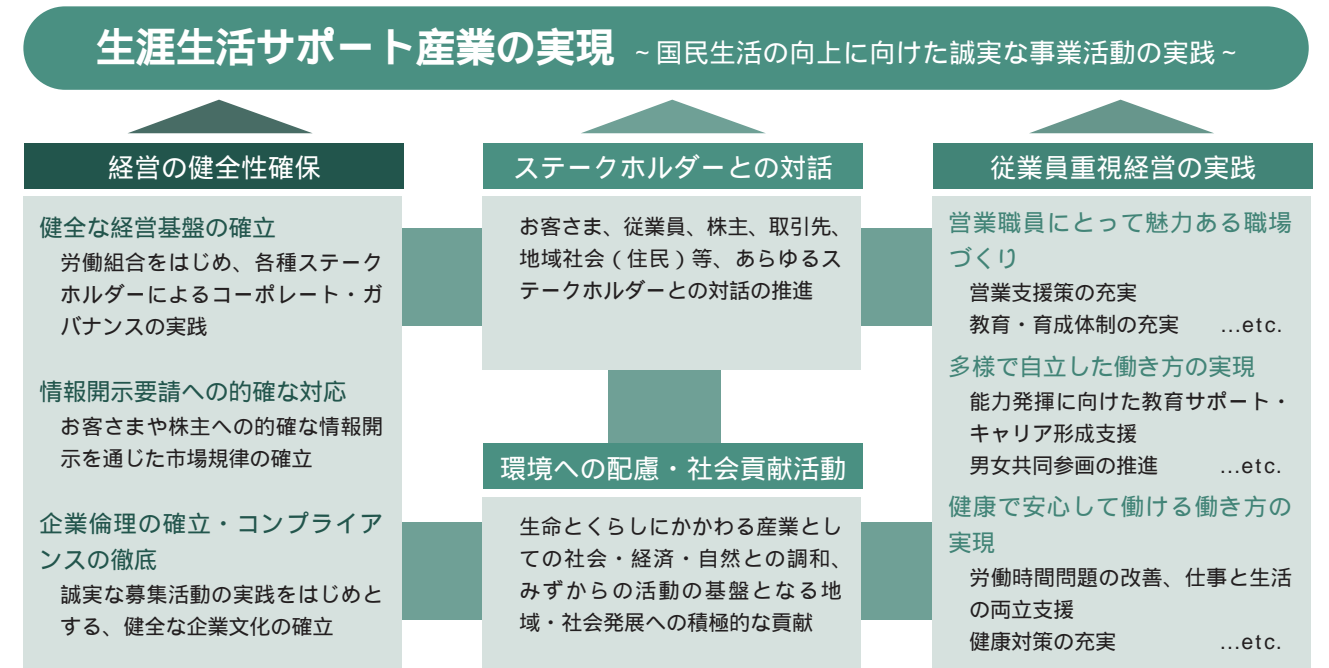


経営の健全性確保は「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱

CSR（企業の社会的責任）の実践状況が、お客さまや社会が企業を評価・判断する際の重要な要素となりつつある中で、経営の健全性確保は事業発展の礎であり、CSRの重要な柱といえます。

わたしたちは、「経営の健全性確保の取組み」を「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱と位置づけ、CSR推進の観点からも本取組みを積極的に推進しています。

「生保産業におけるCSR」のイメージ



わたしたちの取組み

労働組合の立場から 経営に対するチェック・提言活動に努めています

経営情報の開示を求める中で、経営状況、決算見通し等について定期的にチェック・フォローを行い、会社の現況の正確な把握に努めています。また、会社や組合員の将来に大きな影響を及ぼす経営

方針、経営・業務計画、将来ビジョン等についても、課題認識の共有化をはかるとともに、労働組合の立場から積極的な意見反映を行っています。

お客さまの信頼確保に向けて 労働組合としての取組みを強化しています

経営の健全性確保をはかる上で、お客さまの信頼を確保していくことが重要となっている中で、コンプライアンスの徹底、適切でわかりやすい情報開示のあり方、お客さまサービスの一層の充実等について、積極的な労使協議を行っています。

特に、コンプライアンスについてはすべての基本となる活動であり、経営にその徹底を求めるとともに、労働組合みずからも、現場で働く従業員の立場から、コンプライアンスの実効性確保に向けた一層の役割発揮に努めています。

事業運営の適正化、問題の事前予防に努めています

経営の健全性確保に向けては、従業員の労働実態や職場環境についても問題が生じないように、事業運営の適正化、問題の事前予防等をはかる必要があります。

わたしたちは、「労働時間問題の取組み」「職場環境改善の取組み」等を通じ、事業運営の適正化等に向けて積極的な協議を行っています。